

福 議 委 号
平成 2 5 年 2 月 8 日

福島町議会議長 溝 部 幸 基 様

経済福祉常任委員会
委員長 木 村 隆

所管事務調査報告書の提出について

本委員会は、平成24年12月12日福島町議会定例会12月会議において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第140条の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

調 査 事 件	(10) 吉岡温泉の改修と運営について
調 査 期 間	平成25年1月28日(1日間)
出 席 委 員	委員長 木 村 隆 副委員長 花 田 勇 委員 平 沼 昌 平 委員 加 藤 雅 行 委員 藤 山 大 委員 平 野 隆 雄
欠 席 委 員	なし
委員外議員	議員 滝 川 明 子 議員 佐 藤 孝 男 議員 川 村 明 雄 議員 熊 野 茂 夫
職務のため出席した議員	議長 溝 部 幸 基
議会事務局職員	議会事務局長 石堂 一志 議会グループ次長 前田 勝広 議会グループ主事 沢田 元気

[委員会意見]

調査事件 10 吉岡温泉の改修と運営について

(平成 25 年 1 月 28 日調査)

本調査は、吉岡温泉に係る施設総合改修調査委託事業及びヒートポンプ導入基本設計等委託事業の調査結果を受けた改修計画の考え方及び温泉優待券等の見直し内容を調査したところであり、質疑、意見交換の内容及び結果は次のとおりである。

【調査の論点と意見】

(1) 施設の改修計画

町は、施設総合改修調査委託事業及びヒートポンプ導入基本設計等委託事業の調査結果を受けて、現状毎分 150 ㍓の温泉井戸からの揚湯では坑内水位の低下が大きく源泉の揚湯量を毎分 100 ㍓に抑えて資源量の長寿命化を図ること、一定量の源泉掛け流しと循環ろ過機との併用システムを採用すること、排湯を熱源とする効率化水冷式ヒートポンプを導入しランニングコストを低減すること、施設の屋根、外壁、ポーチ等を改修し建物の長寿命化を図ることを目指した改修計画の内容を示した。その中で、当該改修計画の大きな課題として、①事業費が高額で一般財源の負担が多額であること、②休業期間が 10 ヶ月間と長期に及ぶことの 2 点があり、今後の施設の維持運営も含めこの解決に向けた対策に苦心していることを明らかにした。

当該改修計画の事業費は 252,928 千円でうち一般財源が 100,128 千円であり、後年度負担となる過疎債の実質負担額 42,594 千円を合計すると 142,722 千円の負担となる。一方、ヒートポンプ導入による既存ボイラーと比較したランニングコストの年間削減額は 8,860 千円である。単純に合計負担額 142,722 千円を回収できる期間は 16 年であり、事業（投資）効果を判断する一つの指標として見たときの効果は低いと考える。

本委員会としては、上記 2 つの課題を整理した上で、温泉資源量を長寿命化するための揚湯量に見合った施設の維持運営に適した改修計画若しくは建て替え計画をまとめた上で改めて提案すべきものとする。

(2) 温泉優待券等の見直し

家族が楽しんで利用できる施設をめざした小学生以下の無料化及び高齢者の利用増進を図るために温泉優待券の回数を無制限とする見直しは、これまで本委員会においても提言してきたものであり、今後の温泉利用者の増進に繋がる

ものとする。ただし、小学生以下の無料化の見直しは町内に住民登録しているものを対象としているが、家族単位での利用増進をより効果的に進めることも考慮し、町外の小学生以下も対象にすべきものとする。

なお、温泉優待券の見直しに伴う本人確認のために必要なカード等の発行はできるだけ簡便な事務処理で済む方法で検討していただきたい。

【意見交換の結果】

吉岡温泉は、町民の心身の保養と健康を増進し、活力に満ちた地域社会の振興を目的に運営され、町内では最も多くの方に利用されている施設である。こうしたことから、今後も吉岡温泉を安定的に維持運営していくことが不可欠であり、将来に向けた適切な施設の在り方についての提案を期待するものである。